

コンデンサ市場に関する調査結果 2009

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の要綱にてコンデンサ市場に関する調査を実施した。

1. 調査期間：2009年6月～10月
2. 調査対象：国内及び海外のコンデンサメーカー等(計26社)
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談取材、ならびに各種文献調査を併用

＜コンデンサ市場とは＞

本調査結果で取り扱うコンデンサは、積層セラミックコンデンサ(以下MLCC)、アルミ電解コンデンサ(以下Al電解コンデンサ)、導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ(以下機能性Alコンデンサ)、タンタルコンデンサ(乾式・湿式)(以下Taコンデンサ)、導電性高分子タンタル固体コンデンサ(以下機能性Taコンデンサ)、フィルムコンデンサ及び電気二重層コンデンサ(以下EDLC)が含まれる。なお、本調査結果中でのEDLCとは基本的に数F以下のものを指す。

【調査結果サマリー】

◆ 2009年度、コンデンサ世界市場規模は金額ベースで12,917億円、個数ベースで17,253億個の見込

2009年度のコンデンサ世界市場規模は金額ベースで前年度比88.9%の12,917億円、個数ベースで前年度比105.6%の17,253億個を見込む。2008年度秋頃からの景気悪化の影響を受け、コンデンサのユーザである各セットメーカーの減産及び在庫調整が進んだ。2009年4月以降、徐々に需要が回復しつつあるが、本格的にコンデンサの生産稼働率が上昇したのは同年7月以降のことである。また、需要の中心は低価格のローエンドモデルであるため、数量増加以上の部品価格の低下が進行している。その結果、数量ベースに比例した金額ベースでの伸びにはならないと見込む。

◆ 2011年度、コンデンサ世界市場規模は金額ベースで16,001億円、個数ベースで24,124億個と予測

携帯電話やノートPC等のセット機器の需要回復、機器の高/多機能化、LED照明やスマートメータ等の環境・エネルギー関連のアプリケーション増加等により、個数ベースでは増加傾向にあると見られる。一方、ボリュームゾーンでの低価格化が更に進むことから、金額ベースでの大幅な伸びは期待し難い。その結果、2011年度のコンデンサ世界市場規模は金額ベースで前年度比108.6%の16,001億円と2007年度規模には届かないが、個数ベースでは順調に成長し、前年度比115.5%の24,124億個と予測する。

◆ ハイスペック競争の終焉と、ボリュームゾーンでの海外メーカーの台頭

技術力の向上と低価格製品の提供を背景に、台湾、韓国、中国などのアジア系メーカーがシェアを向上させてきている。その動きが特に顕著なのはMLCC市場である。アジア系メーカーは1005サイズや47 μ F以下品等、ボリュームゾーンの低価格化を推し進めることで日系メーカーのシェアを奪取している。一方、日系のコンデンサメーカーはコンデンサの製品ラインナップ拡充を推し進め、セットメーカーに対してより幅広く手厚いサービスを行うことでこれらのアジア系メーカーに対抗している。

◆ 資料体裁

資料名：「コンデンサ市場の現状と将来展望 2009年版」
 発刊日：2009年10月30日
 体裁：A4判299頁
 定価：14,7000円(本体価格140,000円 消費税等14,7000円)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝
 設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL：03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場現況

- 2008年は1-3月にかけ、前年後半からのセットメーカーの在庫調整の影響が継続し、需要が落ち込んでいた。その後、4-6月も需要が鈍化、7-9月に年末商戦に向けて需要が盛り返すも、サブプライムローン問題により秋以降は景気が後退し、セットメーカーの在庫調整、設備投資見送りなどが再発した。この動きに伴い、コンデンサ需要は2008年11月頃から再度減少に転じた。
- その後、2009年1-3月、日系コンデンサメーカー各社は生産能力の6-7割まで生産量を落とす結果となった。その結果、2008年度は金額だけではなく数量ベースでもコンデンサ世界市場規模が縮小し、2008年度のコンデンサ世界市場規模は金額ベースで前年度比80.5%の14,526億円、個数ベースで前年度比94.2%の16,341億個と推計した。
- 2009年4月以降、在庫調整が進んだことで需要回復の兆しを見せている。同年7月以降、本格的に携帯電話やノートPC等のセット機器の需要が回復傾向にあり、機器の高/多機能化が進んでいること等から数量ベースでは増加傾向にあると考える。ただ、上期は前年度の不調を引きずり、また、需要を牽引しているのが高価格機種と比較し部品単価の低いローエンドモデルが中心であることから2009年度のコンデンサ世界市場規模は金額ベースで前年度比88.9%の12,917億円、個数ベースで前年度比105.6%の17,253億個と予測する。

2. 将来展望

- 台湾や韓国、中国などのアジアメーカーがボリュームゾーンでの低価格化攻勢を進め、また、コンデンサ材料価格の下落により、コンデンサの低価格化が進行している。そのため、今後も個数ベースに比例した金額ベースの伸びは期待できないとみる。
- 個数ベースでは、低価格機種増加による使用部品点数の削減、ハイエンド機種でも部品点数増加が期待し難いといったマイナス要因があるものの、セット機器需要が回復傾向にあること、また、LED照明、LEDフラッシュ、スマートメータ等、環境・エネルギー関連でのアプリケーション拡大が期待できることから、増加傾向が継続すると考える。
- その結果、2010年度のコンデンサ世界市場規模は、金額ベースで前年度比114.1%の14,732億円、個数ベースは前年度比121.1%の20,888億個となり、2011年度では、金額ベースで前年度比108.6%の16,001億円、個数ベースで前年度比115.5%の24,124億個と予測する。

3. 注目すべき動向

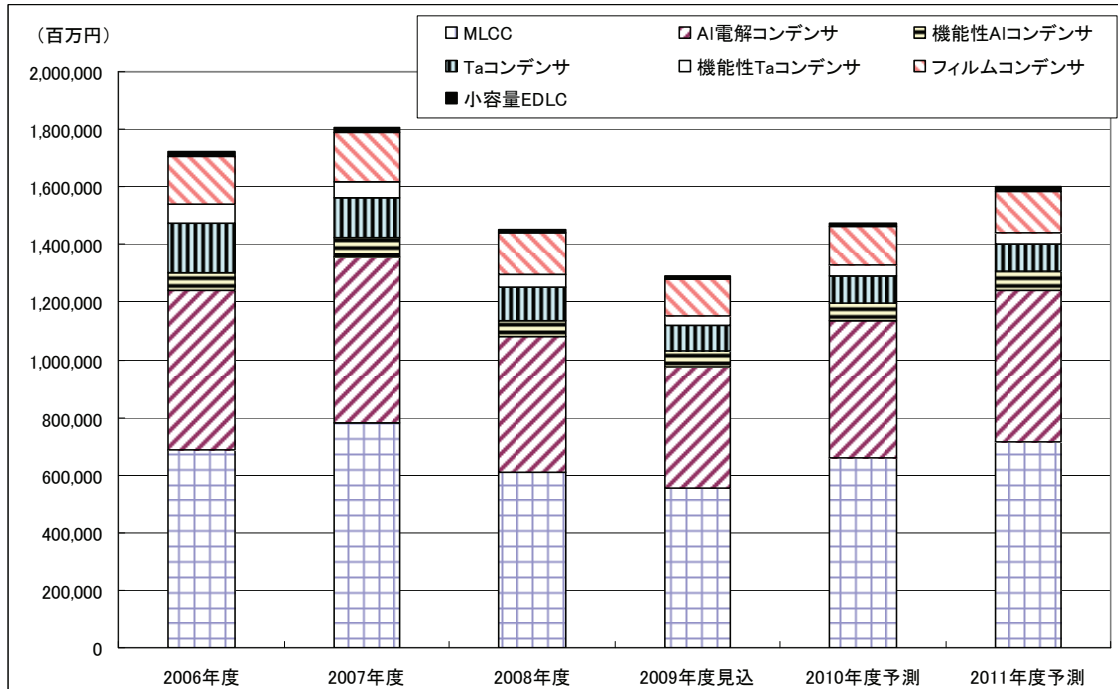
- 今まで日系メーカーは、小型/大容量・長寿命・耐熱性、低ESR(Equivalent Series Resistance)、低ESL(Equivalent Series Inductance)等のハイスペックを追求することで市場シェアの維持及び拡大を図ってきた。しかし2008年度の景気後退以降、この動きに変化が生じ始めている。まず、日系メーカーのハイスペック追及が横並び状態にあり、先行者利益を得難くなっている。その他、市場シェア奪取を狙い、アジア勢がボリュームゾーンの低価格化に注力してきていることも影響している。特にこの動きが顕著なのはMLCC市場であり、2008年度、日系メーカーが前年度比で7-8割の工場稼働率に落ち込む中、アジア勢は需要の最も多い1005サイズや、47 μ F以下をターゲットとし、この領域での低価格化を進めることで、生産数量及び販売数量共に増加させてきている。
- 上記でも述べたように日系メーカーの技術力が横並び状態であること、また低価格を武器とした海外メーカーの台頭といった事がコンデンサ市場で起こっている。また、セットメーカーがコスト削減のため部品の調達先を絞ってきており、自社製品を選択してもらうため、技術と価格を超えた「差別化」戦略が必要となってきた。その中で一部コンデンサメーカーでは、他の企業のコンデンサ事業の吸収により、製品ラインナップ拡充を図ってきている。コンデンサ製品の拡充を行うことで、今まで以上の幅広く手厚いサービスをセットメーカーに提供することが可能となる。専業から総合へ、各コンデンサメーカーの生き残りをかけた業界再編が今後加速していくと予測する。

図表 1. コンデンサ世界市場推移と予測(金額・数量ベース)

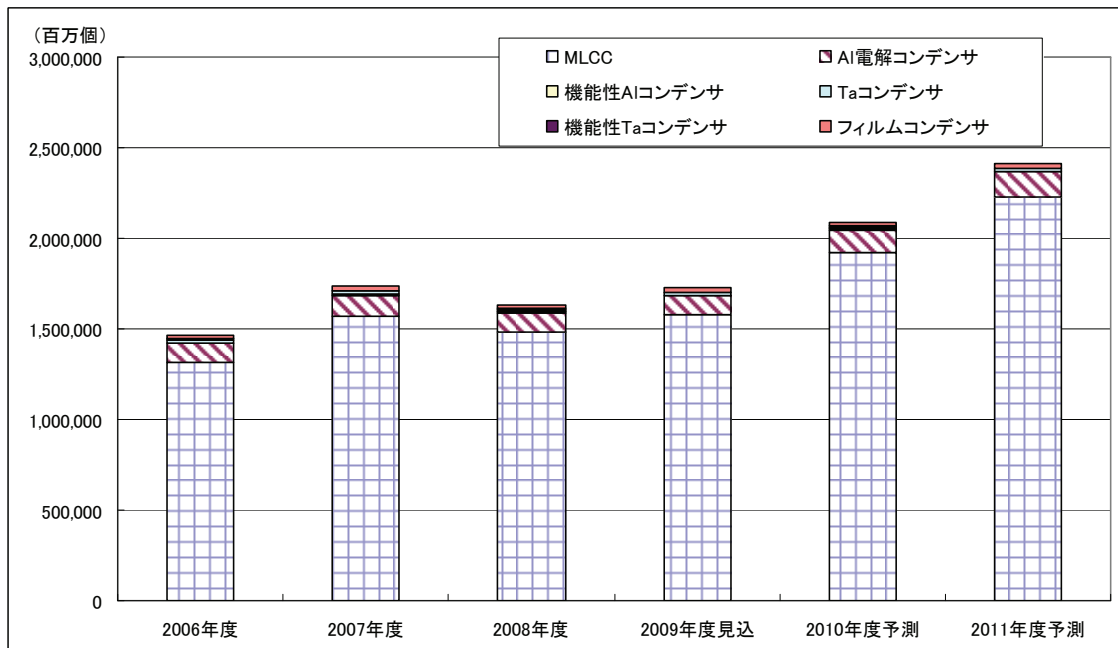
(単位: 上段=百万円、下段=百万個)

	2006年度		2007年度		2008年度		2009年度見込		2010年度予測		2011年度予測	
	売上高	前年度比	売上高	前年度比	売上高	前年度比	売上高	前年度比	売上高	前年度比	売上高	前年度比
金額	1,721,028	—	1,803,974	104.8%	1,452,643	80.5%	1,291,742	88.9%	1,473,241	114.1%	1,600,135	108.6%
個数	1,468,254	—	1,735,311	118.2%	1,634,117	94.2%	1,725,299	105.6%	2,088,767	121.1%	2,412,439	115.5%

矢野経済研究所推計



矢野経済研究所推計



矢野経済研究所推計

注 1: メーカー出荷ベース
注 2: 見込は見込み値、予測は予測値